

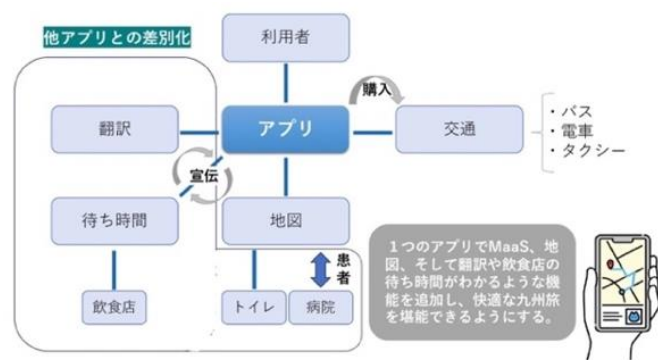
九州観光ビジネスプランコンテスト 2023

事業計画書

提出日 2023 年 10 月 31 日

学 校 名	九州産業大学		
学部・学科名	商学部 経営流通学科		
チ ャ ム 名 (個人参加の場合は任意)	かぼちゃとズッキーニ 🍠 & 🥒	エントリーNo.	12
1. 取り組みテーマについて(なぜこのテーマに取り組んだのか) ・現状および課題認識 1.外国人観光客の回復傾向 2.トラベルアプリ全体の利用率増加 3.数少ない九州対象観光アプリ 国土交通省によるとコロナ禍前の 2019 年と比較して、多くの観光市場で新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少となっているが、2022 年 10 月の水際措置の緩和以降、韓国市場を中心に着実に増加傾向にあり、ASEAN 市場はコロナ禍前の水準を上回っている。また、新型コロナの終息とともに観光アプリ(旅先の街歩きなどの観光体験を満喫するためのアプリ)全体の利用率は回復傾向になってきている。観光庁 観光地域振興課によると、外国人観光客の観光アプリ普及率は全体の 7 分の 1 である。しかし、九州対象の観光アプリはほかの地域に比べて少ないのが現状である。そこで、私たちは更なる外国人観光客増加を目的とした、観光アプリを提案しようと考えた。			
2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて 従来の観光アプリ(無料で使用可能だが、アプリ内において連携される個別サービス及び外部サービスの中には有料のサービスがある)に加え、いくつかの新しい機能を追加する。翻訳、MaaS(複数の交通機関や移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括でできるサービス)、飲食店などの待ち時間をひと目でわかるサービスをひとつのアプリにまとめることにより、福岡の地に慣れていない人でも効率的な旅行を楽しむことができるようにするという新たなアイデアである。 福岡である必要性は大都市であることに加え、国際線の就航する空港があるところだ。アジアの玄関口とも言われている。よって本ビジネスプランは福岡を軸に進めていくのが最適だと考える。			
3. 九州や地域社会への影響について 本アプリが及ぼす効果の一番は外国人観光客の増加である。外国人が観光に訪れる際に便利な機能がアプリ内に備わっていることで、より快適に楽しんでもらうことができる。また、「日本で行きたい飲食店があった場合、どのように予約するか」のアンケートを行なった際、一番多い回答は「予約せずに訪れる」というものだった。よって私たちの観光アプリに搭載されている待ち時間がわかる機能は外国人観光客には需要のある内容であると思われる。加えて、国内観光客も使用可能にすることにより日本人観光客も増加に繋がると考える。それに伴い国内への経済効果や新たな顧客層の拡大、観光客の有意義な時間にもつながり、観光客が九州に足を運ぶ理由を作ることが可能になる。インバウンド増加には、地域活性化というメリットもある。			
4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介			

このビジネスプランでは、MaaS を活用した交通機関のスムーズな利用や観光や医療等の目的地におけるサービスの利用・補助に加え、観光の際にあったら便利な機能を複数組み込まれた観光型アプリを提示する。既存のアプリでは足りない機能を加えることで多くの人のニーズを満たすことを目的とする。



【アプリ内容について】

①MaaS…地図アプリ搭載、交通機関の検索・予約・決済(バス・電車・タクシー・レンタカー・自転車等)

MaaS を利用することの利点は複数挙げられるが、一番は混雑の回避が挙げられる。複数の公共交通機関のスムーズな利用や、カーシェアリングの浸透、タクシーやレンタカーが使いやすくなるなど、自家用車以外の交通機関を利用するハードルが大幅に下がる。

②翻訳機能

複数の言語に対応しており、リアルタイムでテキスト(文章をテキストで入力するとリアルタイムで翻訳結果を提供)・音声(必要な内容をマイクに話すと、リアルタイムで翻訳結果を提供)・会話(外国人とのマンツーマン会話が必要な状況でお互いの言語でリアルタイム会話)・画像(写真を撮ってボタンを押すだけで画像内の文字を自動で認識して翻訳結果を提供)から翻訳可能。これらはオフラインでも利用可能なため、Wi-Fi 等の心配は必要ない。

③待ち時間・営業時間

飲食店やサロンなど、店舗の予約状況をリアルタイムに把握し、待ち時間を削減し集客効率を高めるシステム。混雑時は、リアルタイムに待ち状況が把握できるため、電話受付など人員が必要なく、従業員のコスト削減にもつながる。待ち時間の算出方法の一例として「リトルの公式」を提案する。

このアプリを使えば、お客様自身の受付が簡単になり店舗側も含め両者にとって手間が省ける。店舗側の視点から考えると、人力的な稼働が必要になったり順番が来たお客様を呼び出す手間がなく、店舗運営の効率化が期待できる。また、受付状況や空き状況を共有できるため順番が来るまでお客様が店内に待機しておく必要がない。空き時間の把握が可能のため、取りこぼしを避けることで集客効率のアップが期待ができる。そしてアプリダウンロード時に会員登録をしてもらうことで年齢や性別による分析データや、来店時間の偏りによる人員配置など、さまざまな切り口でのデータ活用が可能になり、顧客情報をデータベース化して蓄積することが可能になる。これらを実現するためには対象店舗に協力を頼む必要があるが、上記のようにメリットが様々あるため協力を促すことができると考える。協力してもらうあたり、補助金を提供する。

④医療

異国の地での病気やケガは観光客にとって不安な要素の1つであるとする。万が一の時のためにアプリ内から近くの医療機関を検索したり、医療機関へのかかり方などを記載したりしている「JAPAN: the Official Guide(観光庁ホームページ)」との提携をし、観光客の不安を減らせるようにする。受けられるサービスとして、高額な治療費でも対応する 1000 万円の治療保障、医療機関紹介・手配サービスなどがある。このサイトへ簡単に飛べるようリンクを掲載し、存在を周知する。

【告知手法】

アプリをダウンロードする動機・きっかけは「アプリストア」や「公式サイト」「SNS」「オフライン広告」が挙げられるが、多くはインターネットを使用して情報収集していることがわかった。

1. Web サイトでの情報発信…来日外国人を集客するためには、外国人が必要としている基本的な情報を掲載しておかなければいけないが、自社で運営する Web サイトであれば、言語も含めて自由に多様化することができる。
2. メディアへの掲載…例えばメディアとは、訪日旅行者に向けて日本の情報を発信する WEB マガジンなどの訪日観光メディアを指す。そういったメディアでは、タイアップ記事や広告出稿などのサービスも用意していることが多い。

3. 旅行関連・宿泊サイトなどの予約サイトへの掲載…観光先に出向く際、事前に現地の関連したサイトや宿泊予約サイトを調べられる。そこに広告として掲載をお願いすることで、外国人観光客への目にも入るようになると考える。

4. SNS の運用…SNS では、コンテンツが流動的で、テキストだけではなく、写真、動画など視覚で楽しめる情報が投稿可能で、旅先での様子をリアルタイムに発信することができる。

【他の企業との連携状況】

既存の観光アプリとの連携を行い、利用率の拡大を目標とする。飲食店の待ち時間算出の協力や外部サービスを利用するためのチケットの提供に伴い利益を支払う。

【資金計画】

(単位：千円)

必要資金	金額	調達方法	金額
開発費	15,000	自己資金	10,000
人件費	750	クラウドファンディング	6,550
設計・デザイン費	1,500	銀行借入	5,000
保守費	1,800	家族・親戚からの借入	1,000
改善費	3,000	ベンチャーキャピタル	10,000
広告費	9,000		
協力店舗への補助金	1,500		
合計	32,550		32,550

【年間利益】

利用者からの収益: 有料サービス(MaaS)から仮に1人あたりの平均収益が1,000円と仮定し、利用者を340,000人とする。※340,000人という数字は2018年の福岡への外国人入国者数(約2,400,000人の7分の1)より想定
年間利用者からの収益 = 340,000人 × 1,000円 = 340,000,000円

広告収益: 広告収益率は通常広告の表示回数やクリック数に依存する。ここでは広告収益率が広告費の50%と仮定する。

広告収益 = 9,000,000円 × 0.5 = 4,500,000円

その他の収益: 協力店舗からの収益が1,500,000円であると仮定する。

※情報提供による紹介料を利益とするマッチングモデルを想定

年間収益 = 340,000,000円 + 4,500,000円 + 1,500,000円 = 346,000,000円

ここから考えられる利益は(2年目以降は開発費を除く)

年間利益 = 年間収益 - 年間経費 = 346,000,000円 - 32,550,000円 = **313,450,000円**

5. 事業化後の目標、継続可能性や将来のイメージなどについて

最初は海外からのアクセスの良い福岡県を中心に世間へのアプリの普及を進めていき、徐々に九州、日本全国へと規模を拡大していきたい。将来的には海外の観光客だけでなく日本の観光客にも利用を促し、観光の際に知りたい情報などの機能(ロッカーの場所、喫煙所等)を追加していき、すべての観光客が快適な旅行を楽しむことができるよう、アプリを通して手助けしたいと考えている。

<記入上の注意>

- ・各項目の文字数の制限はありませんが、計画書全体で最大A4用紙片面3枚以内に収めてください。
- ・各項目の詳細説明のため概要図・グラフ・画像などの挿入や添付も可と致します。

なお、解像度に画像が荒くなる場合がありますので、使用するフォントや写真等には留意下さい。